



京丹後に棲む
絶滅危惧種のハヤブサ

ハヤブサ

ニュース No.85

2023. 6. 20

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒 602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込座 00950-9-303127 名義 京都連絡会

6・10京丹後 現地集会報告

駒井高之



米軍Xバンドレーダー基地前集会

「米軍Xバンドレーダー基地反対・近畿連絡会」は6月10日、「米軍Xバンドレーダー基地撤去！ 6・10京丹後現地集会」を開きました。京都駅八条口出発のバスは満席で、滋賀からもバスで参加されました。

米軍Xバンド基地前の広場で開いた集会には近畿各地からの参加者も含め100人近くが参加しました。

集会では最初に主催者を代表して近畿連絡会代表世話人の大湾宗則さんが「ここへ集まっている近畿や京都の働く仲間、市民、この方々はXバンドレーダーを日常的に見たり聞いたり被害を受けたりすることはない。そういう意味では被害からの闘いということではなくて、私たちがここに集まっているのは、このXバンドレーダーが日米安保に基づいて東アジアの平和をつぶし、日本の軍拡を進め、沖縄・南西諸島を出撃拠点として軍事基地を強化し、戦争政策が進められることを阻止するために闘いにきている。」と述べました。

次に「米軍基地建設を憂う宇川有志の会」・京丹后市議の永井友昭さんが発言をおこないました。永井さんは「最近の状況であるが、大きく2つのことが注目される。一つは昨年の11月8日に網野町三津でシェネガの警備員の乗っているワゴン車が土地のご老人と接触するという事故があった。これは明らかに人身事故であった。防衛局はその人の真相を確かめもせずにかげんな情報で軽微な物損事故であるということで扱おうとした。その一連の中から見えてくるのは日米地位協定というものがやはり米軍が特権階級であることを明らかに定めたものであって、米軍にとっては情報を出すという義務はない、その時その時で判断したら良いのだということが結論だということである。

もう一点が重要土地等調査規制法である。今年になってから5月に第2次の指定が発表された。それは161カ所、その指定には特別注視区域と注視区域があって、特別がつくと指定された場所の周囲1kmの土地の中の動きがすべてチェックをされる。そしてここに関わる人間もさまざまな形で調べられる。阻害行為と思われるものと認められたら刑事罰も出てくる。ここに住んでいるものにとっても、ここにいろんな形がかかわる人たちにとっても基本的な人権が侵されかねないという法律ができ、その指定が今はじまっている。これに対してそれだけ大切な話であるのに、国は地元自治体の話は聞くけれども住民説明会はしようとしていない。住民にとってはどういふことが起きるのかということをはっきりさせて、それに対する対応を問うていかなければならないと思っている。」と述べました。

この後、近畿連絡会兵庫世話人の中村伸夫さん（憲法を生かす会・ひょうごネット）、奈良世話人の植林成光さん（憲法を生かす奈良県民の会）など近畿各地の市民団体の代表らが発言しま

した。

集会後、参加者は袖志、尾和の集落の中を通るデモ行進をおこないました。そして自衛隊基地前での抗議行動、米軍Xバンド基地前での抗議行動を警察の過剰警備にも負けずやりきりました。



集会後、デモ行進



米軍基地前抗議行動



自衛隊基地前抗議行動

京丹後訪問案内

6/23 (金)、7月13日 (木)

午前 8 時 30 分、鴨川五条大橋西詰 GS 前集合
(参加予定の方は事前連絡をお願いします。
池田 090-7108-5508)

京丹後市の 6 月議会が始まっています。6 月 23 日の京丹後訪問では、京丹後市役所前でのアピール行動、基地対策室への申し入れを行います。

いま岸田政権の戦争政策の下、自衛隊舞鶴基地に配備されているイージス艦への巡航ミサイル・トマホークの搭載計画、あいば野演習場での自衛隊と米軍・外国軍との合同軍事演習の拡大・強化など、近畿でも戦争体制強化が進んでいます。京丹後の米軍 X バンドレーダー基地をめぐるっては、日米両軍の合同演習・共同訓練が年を追って拡大し、土地利用規制法による住民と反基地運動に対する監視体制が強められようとしています。急速に進められている日米韓の軍事協力も京丹後での基地強化につながるものです。それはふたたびアジアの人々に銃口を向けようとする日米の戦争体制づくりの一部に他なりません。

情勢の緊迫のなか、沖縄の島々でたたかう人々、東アジアの民衆と連帯し、京都市内と京丹後を結んで、岸田政権の戦争政策を止め、米軍 X バンドレーダー基地の撤去をめざすたたかいをさらに大きく広げていきましょう。京丹後訪問活動への参加を呼びかけます。

お知らせ

6/23(金) No Base! 6月例会 無料
18:30 ひとまち交流館・京都
「沖縄慰霊の日」・沖縄戦の悲劇の原因は何なのか?
話 大湾 宗則さん

6/29(木) No X-Band 京都連絡会 6月例会
18:30 ひとまち交流館・京都 ¥200.-
三上智恵監督最新作 「沖縄、再び戦場へ」

7/1 (土) 基地のない平和な沖縄・日本・東アジアを!
13:30 開演 講師 前泊博盛さん他 無料
主催 京都沖縄連帯実行委員会

反基地闘争の再出発



米軍基地前で 共同代表 大湾宗則

2023年6/10 快晴。闘い始めて10年、
3年越しの京丹後現地闘争(1頁駒井氏報告参照)

はじめに

京丹後は「陸の孤島」と言われ、休閒地が広がる過疎地。2013年2月、当時のオバマ大統領と安倍首相が会談し、(青森津軽の車力分屯基地につづく)日本で二基目の米軍 X バンドレーダー基地は航空自衛隊経ヶ岬分屯基地の中に(拡大されて)配備が決定された。

2014年10月22日、レーダー搬入、同日付で米陸軍第14ミサイル防衛中隊が発足、12月26日から運用開始された。

私たちは、2013年7月「米軍 X バンドレーダー基地反対京都連絡会」、9月に「近畿連絡会」を結成し、基地建設過程に抗議し、完成後は撤去を求めて今日までやれることはやり切った(と思い込んできた)。結果は未だ基地撤去を担う地元の人々の立ち上がりは進まず、私たちの団結の広がりもない。

京丹後の現状は、朝鮮を対象とした日米合同軍事演習が朝鮮のミサイル実験を加速させ、自衛隊が米軍経ヶ岬通信所の防御訓練を米軍と共同で実施を繰り返している。日常的には、交通事故、騒音などの生活被害が多発している。

「基地受け入れ時」の防衛省との10項目の約束は無視されている。しかし、この被害を呼び込んだのは、米軍に土地を貸した袖志、売却した尾和の地権者の同意、京丹後の住民と自治体、京都府である。10年を節目に闘いの中身を振り返り、再出発しなければならない。

米軍基地は如何に配備されたか

確かに政府のやり方はえぐい。過疎を放置し、高齢者に貧困を背負わせ、「X バンドレーダーは防衛目的だから相手から攻撃はあり得ない」と安全を装って嘘をつき、米軍再編交付金とし

て年間6億円、5年間で総額30億円で京丹後市を取り込み、地権者には農地一反約8,000円を宅地に転換させて一反約30万円(約37倍)で賃貸借(袖志の地権者)、売買(尾和の地権者)で合意を取り付けている。

当初、戦後直後、米軍支配下にあった京丹後基地周辺で女性への強姦含めた被害を記憶している地権者達は、米軍の駐留に不安があり、契約を逡巡するものも多かったが、京丹後に戦前からの「在郷軍人会(現在の退職自衛隊員会)」が影響力を発揮し、宇川区の有力者が防衛職員と戸別訪問し、「お国のため」「米軍が駐留すると人口が増え、消費が増え、人手不足が解消して祭もできる」「地域の活性化のため」と言い、渋る地権者には「村八分」をほのめかして強制的に契約書に押印させた。

米軍は「良き隣人」たらんとして活動している。祭りや催しに参加し、海岸のごみ拾い、風水害へのボランティア活動、英会話教室、小・中学校から公民館などへ出張した米軍音楽隊の演奏、そしてこれらが(日本語版の)米軍ニュースだけではなく、京丹後市の広報誌で逐一宣伝が繰り返されている。残念ながらこうした事実の告発を私たちは抑制してきた。

何故、私たちは基地配備の背景を強く告発し得なかったのか？

米軍 X バンドレーダー基地を京丹後に配備することを幫助した人たちとどうかかわるのか。この点繰り返し「運営委員会」で論議してきた。結果は大略、他人の財産処分ほうじよに「外部」から批判めいたことは控えるべし、に要約される。この点の再点検が必要です。

私有財産権に対する社会権の優位性を確立

憲法第29条の第一項には「財産権はこれを犯してはならない。」とある。財産権は不可侵ということは旧近代憲法の核心的条項です。

これまでの運営委員会の大勢はこの旧近代憲法に基づいている。結果、これまで X バンドレーダーを京丹後によび込みを幫助し日米安保条約に与する人々に対する批判は封じられてきた。しかし、現代憲法は近代憲法を克服して社会権が確立されており、現憲法の第29条第二項は「財産権の内容は、公共の福祉に適合するように、法律でこれを定める」、とある。

現代憲法の核心は社会権にある。

社会権は、1918年のドイツ革命(挫折)後、1919年に発布されたワイマール憲法に初めて登場する。**社会権**とは、産業革命を経て既に労働者大衆が人口の圧倒的多数を占めたことを前提にして、労働者大衆の**生存権**(生活費賃金制・全国最低賃金制・生活保護制度・福祉社会保障制度など)、**教育権**、そして**労働三権**(団結権・大衆交渉権・ストライキ争議)を包摂して保障したものである。

今後、京丹後における反基地闘争の基準として社会権の確立に基づいて進めることを呼びかける。

私たちは直接基地の被害を受けていないのにここ京丹後にきているのはどういうことか?

直接被害を受けた方々が基地撤去を担うことが最善です。しかし、現状、地元の方々は諸般の理由で立ち上がれない。Xバンドレーダ基地は、個人的被害のみならず社会的・軍事的被害、更に他国に対する加害を煽り、東アジアの軍事的緊張を煽っている。結果、政府は日米安保に基づき国家安全保障戦略で国民の税を軍事予算につぎ込んで倍増し、敵基地攻撃可能な装備を整え、とりわけ沖縄の辺野古・南西諸島を海外派兵の前進基地として固めつつあります。

私たちの戦いと訴えが京丹後地元の方々の支持と共感を掘り起こし、毎年年度末に契約更新する際、地権者の方々が翻意し、彼らもまた京丹後市に基地撤去を申し入れる状態が出来るまで改めて頑張りましょう。

仲尾 宏さんを偲ぶ会

米軍 X バンドレーダ基地反対京都連絡会共同代表 大湾宗則

2013年、米軍 X バンドレーダ基地反対京都連絡会結成以来、共同代表を担われ、朝鮮史研究者の立場からも東アジア情勢や京丹後の歴史についてご指導いただいていた仲尾宏さんがお亡くなりになりました。

葬儀はすでに家族葬として行われています。

つきましては、以下の要綱で「偲ぶ会」を執り行いますので、ご参加希望の方は下記の寺田道夫さんまで6/25までにご連絡をお願いします。

日時:2023年7月16日(日) 13:30~16:00
会場:京都市左京区 京都教育文化センター101号室
(京阪「地下鉄神宮丸太町」駅下車、5番出口東へ徒歩5分)
会費:3000円 <食事・お酒込>
主催:反戦・反貧困・反差別共同行動in京都 実行委員会
代表世話人:新開純也、事務局長:寺田道男
寺田 090-5166-1251

「街なかピラ」の報告と

今後のお知らせ (文責 白井)

2023年5月の報告

第151回 5月15日(月) 百万遍 4人

心配した雨も止み、百万遍手作り市の日。今までになく外国人が多い百万遍でした。この日は60代・70代の男性がよくピラを受け取ってくださった。<街の人の声>

・「基地はあかん！」(60代男性)・チラシの地図を見て「原発立地と同じだ、過疎地に利権で押し付ける」(60代の男性)・「日米地位協定の問題があるけど沖縄も大変だ」(若い男性)・「知らなかった、ゆっくり読みます」(70代女性)・「攻められたらどうする?自分たちで守らないと。あおられてるのと違う、自分で考えた結論だ」(中年女性)

第152回 5月26日(金) JR二条駅 4人

<街の人の声>

・「僕もチラシ配りをするけど、受け取る人が少ない、特に若い人は全然。大変さがよくわかる。がんばってや」(82歳男性)・「基地があつたらあかんの?税金が使われてるの?私は税金払ってないから。戦争言うても私が死んだ後やから」(80歳女性)間接税の事などゆっくり話をしました。「そりゃそうだね~、家でゆっくり読むわな」・「良かった、自衛隊では守れないから、米軍が日本を守ってくれるんやろ。日米安保で決まってるから日本を守る!」と言い捨てて駅の中へ(60代?男性)この日は人通りは少なかったけど、ゆっくり話が出来人もあつたし、高校生4~5人にも渡せた。※6月の「街なかピラ」の報告は7月号でします。

今後の予定です

第155回 7月10日(月) 大手筋商店街

集合場所:京阪電車「伏見桃山」駅前です。

第156回 7月21日(金) 東寺さん周辺

集合場所:近鉄電車「東寺」駅前

時間はいずれも11:00~12:00です。

無理のない体調でご参加ください。待っています。

連絡先:090-5672-1597(白井)